

セコム株式会社
株主通信

12月
2006年

第46期中間決算報告



Secom Now

家庭・個人の高まる安心・健康志向に应运

SECURITY TOWN Home Service Comfort Garden Azamino HEALTH UP NAVI KENKO

高まる「安心で便利な暮らし」への欲求、

「快適に年をとること」への願望、「健康管理」に対する意識…

そうした人々の思いに応えるサービスを開発し、家庭と個人マーケットを深耕しています。

生活支援サービスの提供地域を拡大

昨年、「セコム・ホームセキュリティ」のお客様向け生活支援サービス「セコム・ホームサービス」を提供しています。これは、暮らしの中での悩み事や困り事を解決する有償のサービスで、好評をいただけてきました。



「セコム・ホームサービス」の家事サポート

そこで、これまで関東・関西の一部地域に限っていた提供エリアを、この7月

から大阪市、神戸市（一部地域はすでに実施）、京都市、さいたま市などに、9月から千葉市、名古屋市、福岡市に拡大。これにより、「セコム・ホームセキュリティ」のご契約先のほぼ半数に当たる17万5000件でご利用いただけるようになりました。今後も全国の政令指定都市などに拡大し、お客様の「安心で便利な暮らし」をサポートしていきます。

「セキュリティタウン」でも先駆

最近、「セキュリティタウン」が注目を集

めていますが、これは住宅街の各住宅はもとより、住宅街全体にもセキュリティ対策を施した街区のことで、日本では、積水ハウス（株）が1998年から茨城県十王町で分譲を進めてきた「ひたち十王城の丘」に、2004年5月にセコムがホームセキュリティなどを提供し、「セキュリティタウン」化したのが最初と言われています。

現在、セコムは、東京・吉祥寺の、セキュリティゲートを持つ「桜の杜」など、約50カ所の「セキュリティタウン」で、ホームセキュリティをはじめ、出入管理システム、顔検知機能付カメラインターホン、監視カメラなど、トータルなセキュリティを提供（ま

たは提供を予定)しています。コミュニティの安全化を促進するため、「セキュリティタウン」分野でも積極的に貢献していきます。



セキュリティタウン・コモンステージ吉祥寺「桜の杜」(東京・吉祥寺)

独自の介護付有料老人ホームをオープン

メディカル事業では、セコム医療システム(株)が、横浜市青葉区に建設中だった介護付有料老人ホーム「コンフォートガーデンあざみ野」を10月1日にオープンしました。

この「あざみ野」の特徴は、健常者でも要介護者でも入居が可能なことです。一般的な健常者向けの有料老人ホームでは、「入居時に自立」という条件付のところが多く、夫婦のいずれかが介護が必要な場合には、入居できないか、別々の施設に入居しなければなりません。が、「あざみ野」ではそのような場合でも一般



「コンフォートガーデンあざみ野」(横浜市・青葉区)

居室に入居できます。もちろん、一人で入居される方が要介護状態でも共同生活が営めれば入居できます。また、従来の老人ホームでは、自立か要介護かと二者択一的に分けるところが多いようですが、実際には中間的な状態や、一時的に介護が必要な状態があり得るので、「あざみ野」では自立生活を支援するコンフォート・エイジング・エリア(CAREA: カレア)や一時介護室を設けています。できるだけ長く一般居室で暮らしていただくための、こうした仕組みも他の施設にはない特徴です。

このほか、入居者の健康管理については、同一建物内のクリニックがホームドクターの役割を果たし、急病時には診断・治療し、必要に応じて協力医療機関と連携して対応します。また、

食事については、入居者一人ひとりの健康状態や嗜好に対応するほか、芸術活動や趣味活動をサポートするアクティビティプログラムも多数用意しています。

これからの時代の高齢者の生活や住環境を徹底して考えた、これまでにない有料老人ホームとして評判を呼んでいます。

健康管理サービスも拡充

セコム医療システムでは、生活習慣病の予防を目的として、インターネットを利用した生活習慣改善サポートシステム「ヘルスアップNavi」を提供しています。これは、企業・団体の社員・職員を対象に、産業医や保健師が肥満やタバコなどの生活習慣の改善を支援するサービスです。



「四谷メディカルキューブ」(東京・四ツ谷)

同社はまた、医療法人社団あんしん会「四谷メディカルキューブ」と提携し、会員制健康管理サービス「セコム健康くらぶKENKO」を提供しています。これは生活習

慣病の予防・早期発見・早期治療をめざす医療サービスで、会員の方は1泊2日の総合人間ドックと、会員担当医師チームによる医療相談や健康管理サービスを受けることができます。もちろん、会員ではない一般の外来患者も自費または保険で、PET-CTをはじめとする最新の医療機器による検査や人間ドック、各種診療を受けることができます。

これからも、高齢者社会の進展に伴って高まる健康ニーズに応えた、新しいサービスの開発・提供に努めます。

「セコムベトナム」を合併で設立 海外事業は11カ国目の進出

セコムは、今年6月、ベトナムの大手セキュリティ会社・ロイヤルセキュリティサービス社と合併で「セコムベトナム」を設立しました。ベトナムでは、オフィスや工場のセキュリティは常駐警備が中心で、オンラインセキュリティシステムはほとんど普及していません。当面、主にセキュリティのコンサルティングサービスなどを行います。将来はオンラインセキュリティシステムを中心に事業の拡大を行う計画で、その準備を着々と進めています。これまで、台湾、韓国、米国、英国、タイ、マレーシア、シンガポール、オーストラリア、中国、インドネシアの10カ国に展開しているセコムの海外事業。今回のベトナムで11カ国目の進出となります。

中国沿岸部を中心にサービス拠点を拡大 現在の11都市から1年後20都市体制へ

セコムは、海外事業の重要マーケットと位置づけている中国で、拠点数を大幅に増やし業容拡大に取り組みます。

1992年に設立した中国の持株会社・西科姆中国有限公司は、大連、上海、北京、青島、深圳に計5社の現地法人を設立。現在、中国全体で約1万件のご契約先を保有しています。現地法人は、さらに周辺都市へエリアを拡大。現



拡大する西科姆中国の沿岸部拠点

在、大連西科姆からは瀋陽市に、上海西科姆からは昆山市、無錫市、蘇州市に、北京西科姆からは天津市に、深圳西科姆からは広州市に進出。また今年は杭州市などに進出しています。

経済発展著しい沿海部11都市にある拠点を、本年度は新たに5都市増やすことで、この1年間に合計20都市体制をめざします。杭州市への進出で、沿岸部の主要都市への展開は完了し、今後は内陸部の主要都市への展開も視野に入れます。

セコムのノウハウを結集した有料老人ホーム 「コンフォートガーデンあざみ野」 10月1日オープン

セコム医療システム(株)は、“コンフォートエイジング(快適に年齢を重ねる)”をコンセプトとする「セコムフォートシリーズ」の第1号施設として、10月1日、横浜市青葉区あざみ野に「コンフォートガーデンあざみ野」をオープンしました。



「コンフォートガーデンあざみ野」(横浜市・青葉区)

セコムのメディカル事業では、在宅医療サービスの拡充に努める一方、終身利用型の有料老人ホーム「サクラピア成城」「ロイヤルライフ多摩」、また、介護専門の「アライブ」シリーズを展開。この分野でも実績を有しています。こうして培ってきたノウハウに加え、これからの時代の高齢者の生活や住環境を徹底的に考えた、新しいコンセプトの有料老人ホームが「コンフォートガーデンあざみ野」です。

今後の「セコムフォート」ブランドの展開としては、2009年4月にシリーズ第2弾として神戸市灘区に「コンフォートヒルズ六甲」を開設する予定です。

セキュリティ、海外、地理情報サービスの分野で

将来への布石を打つ

セコムグループの将来を見据えて打った布石について、
セコム社長の原口兼正がご説明します。

10月に東洋テック(株)の株式を取得。
6月には海外事業で11カ国目となるベトナムに
進出しました。経緯と狙いについてお話しください。

「トピックス」でも触れた通り、東洋テックの発行済株式の25.47%を取得し、筆頭株主となりました。これにより東洋テックはセコムの持分法適用会社となりました。

同社は、2006年3月期の売上高が124億7000万円の関西では有数のセキュリティ企業で、以前からセコムとは協力関係にありました。今後は、この関係を関西地域だけでなく他地域にも押し広げ、営業力の強化と業務運営の効率化をめざします。

ベトナムでは、同国で大手のセキュリティ会社であるロイヤルセキュリティサービス社と合併で、「セコムベトナム」を設立しました。ここ数年、日系企業をはじめ外資系企業が続々と進出し、将来の経済成長が確実

視されていることから進出したものです。

セキュリティ事業に関しては、外資の参入規制があるため、当面はセキュリティサービスのコンサルティングが中心となりますが、ゆくゆくはオンラインセキュリティシステムを提供していく計画です。

地理情報サービス事業を担っている
(株)パスコでは、将来有望な事業が
スタートしますね。

パスコの主たる事業は航空測量です。これは航空機で撮影した写真を元に地図を作成して自治体などに納める仕事ですが、数年前から民間企業にデジタル地図を販売するなど、民間需要の開拓を行うことで、官需から民需へ売り上げ構造の転換を図ってきました。その結果、ここへきて売り上げ・利益ともに上昇に転じま

した。加えて、パスコでは将来的に有望な事業がこれから始まります。

一つは、商業用衛星として世界最高分解能を実現した「合成開口レーダ衛星」を運用しているEADSグループのInfoterra社と契約を結び、この衛星で撮影したデータの全世界への販売権と国内独占販売権を取得したことです。このデータをただ販売するだけでなく、パスコが培ってきた測量技術・空間処理技術と連携した新たなソリューションサービスとして提供することにより、地理情報サービス事業の大きな柱になると期待しています。

もう一つは、いま東南アジア各国で国土地図の作り直しが始まっており、パスコの測量・計測技術が活かせることです。インドネシアでは今後数年間にわたり大規模な仕事を受注しようとしており、フィリピンやタイでもやはり数年間で同様の規模になります。

このように、企業として進むべき方向が明確になってきたので、今後、パスコの業績は好転すると見えています。

8月1日付けで単元株式数を
500株から100株に引き下げましたが、
効果はいかがですか。

ホームセキュリティのお客様を中心とした個人投資家の方から、「セコムの株価は高いので手軽に買えない。少ない投資で買えるようにしてほしい」という要望が多数寄せられていましたので、お応えしたわけで

すが、おかげさまで9月末で個人株主の方が約8千人増えました。それまでの株主数が約2万人ですから著しい増加率で、株主の皆様には感謝しております。今後も株主の皆様のご期待に添えるよう努めたいと思います。

防災業界トップ企業の能美防災(株)を
第三者割当増資引受により
連結子会社にされるそうですね。

セコムは1974年に能美防災の株式を初めて取得し、業務提携を行いました。1985年には株を買い増して持分法適用会社とし、現在は筆頭株主として協力関係にあります。

セコムは防犯中心で、能美防災は防災分野ですが、めざすところは広義の“安全”で同じです。今後は、セコムの防犯技術と能美防災の防災技術を融合化して、独創的な新商品の開発や、新たな市場を開拓していきたいと考えております。



セコム株式会社
代表取締役社長

原口 兼正

Review

中間連結貸借対照表(要旨)

2006年9月30日現在

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	4,820
現金及び預金	2,297
コールローン	300
受取手形及び売掛金	391
未収契約料	184
有価証券	496
たな卸資産	831
短期貸付金	63
その他	256
固定資産	5,990
有形固定資産	2,479
建物及び構築物	785
警報機器及び設備	660
土地	731
その他	303
無形固定資産	245
投資その他の資産	3,264
投資有価証券	2,175
長期貸付金	520
前払年金費用	120
繰延税金資産	161
その他	286
繰延資産	2
資産合計	10,812

負債の部

流動負債	2,719
支払手形及び買掛金	162
短期借入金	1,195
一年以内償還予定社債	26
未払金	172
未払法人税等	194
前受契約料	330
その他	637
固定負債	2,707
社債	150
長期借入金	112
預り保証金	299
退職給付引当金	111
保険契約準備金	1,978
その他	55
負債合計	5,426
株主資本	5,051
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	4,005
自己株式	△448
評価・換算差額等	△17
その他有価証券評価差額金	88
繰延ヘッジ損益	△0
為替換算調整勘定	△104
少数株主持分	352
純資産合計	5,386
負債純資産合計	10,812

純資産の部

中間連結損益計算書(要旨)

2006年4月1日から2006年9月30日

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

売上高	2,676
売上原価	1,641
売上総利益	1,034
販売費及び一般管理費	612
営業利益	422
営業外収益	72
営業外費用	42
経常利益	452
特別利益	0
特別損失	8
税金等調整前中間純利益	444
法人税、住民税及び事業税	187
法人税等調整額	△ 17
少数株主利益	11
中間純利益	261

<参考>

●連結子会社数	139社
●持分法適用非連結子会社数	該当なし
●持分法適用関連会社数	32社
●1株当たり中間純利益	116円27銭

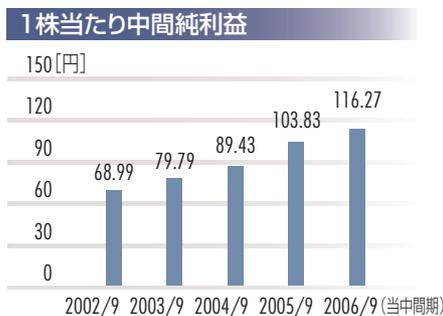
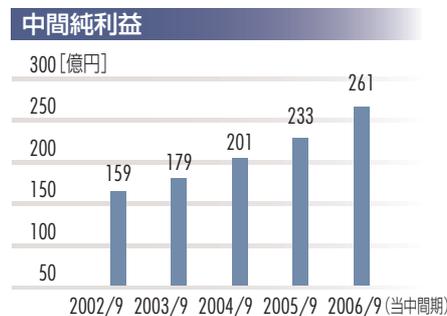
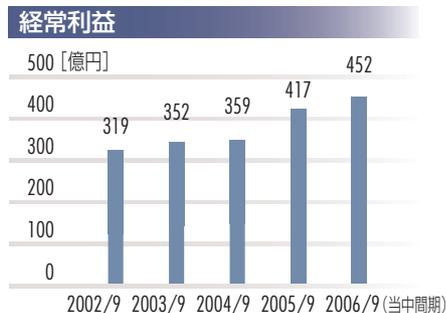
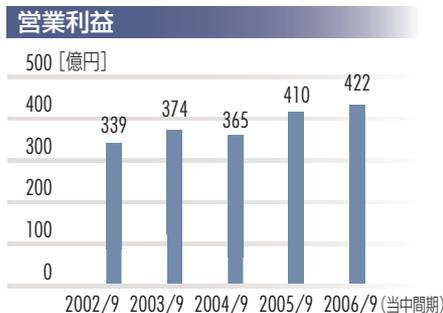
営業の概況(連結)

近年の治安の悪化や個人情報保護への意識の高まりなどを背景に、安全・安心に対する社会的ニーズはますます多様化・高度化しています。このような状況の中、セコムグループは「社会システム産業」の本格展開に向けて、新サービス・商品の提供、事業所の新設・再配置および組織の改編を行うなど中核となるセキュリティサービス事業を拡充させる一方、メディカルサービス事業、保険事業、地理情報サービス事業、情報通信・その他の事業を積極的に展開し、顧客のニーズにより一層合致した高付加価値サービス・商品を提供することに努めました。

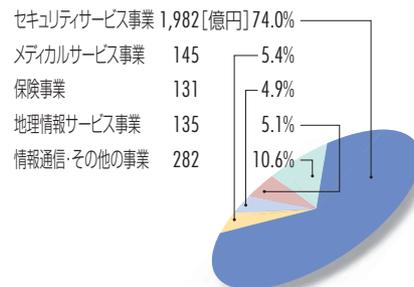
これらの結果、当中間期における連結売上高は2,676億円(前年同期比64億円、2.5%の増収)、連結営業利益は422億円(前年同期比11億円、2.9%の増益)、連結経常利益は452億円(前年同期比34億円、8.2%の増益)、連結中間純利益は261億円(前年同期比27億円、12.0%の増益)となりました。なお、前中間期の営業利益および経常利益には、退職給付会計基準の改正に伴う影響額(15億円)がそれぞれ含まれており、それらを除いた場合、営業利益は前年同期比7.0%の増益、経常利益は前年同期比12.5%の増益となります。

Review

中間連結決算 業績ハイライト



事業別売上高内訳 2006/9 (当中間期)



中間連結株主資本等変動計算書

2006年4月1日から2006年9月30日

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2006年3月31日残高	663	830	3,880	△447	4,927	132	-	△ 98	34	354	5,316
剰余金の配当			△134		△134						△134
利益処分による役員賞与			△ 1		△ 1						△ 1
中間連結 会計期間中 の変動額			261		261						261
買換資産圧縮積立金の取崩し					-						-
自己株式の取得				△ 1	△ 1						△ 1
自己株式の処分		0		0	0						0
株主資本以外の項目(純額)						△ 44	△ 0	△ 6	△ 51	△ 2	△ 53
中間連結会計期間中の変動額合計	-	0	124	△ 0	124	△ 44	△ 0	△ 6	△ 51	△ 2	70
2006年9月30日残高	663	830	4,005	△448	5,051	88	△ 0	△104	△ 17	352	5,386

中間貸借対照表(単体・要旨)

2006年9月30日現在

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	1,785
現金及び預金	1,301
未収契約料	104
売掛金	60
たな卸資産	71
短期貸付金	140
その他	108
固定資産	4,429
有形固定資産	1,258
建物	226
警報機器及び設備	624
土地	322
その他	86
無形固定資産	79
投資その他の資産	3,090
投資有価証券	417
関係会社株式・出資金	1,511
長期貸付金	681
長期前払費用	233
繰延税金資産	76
その他	170
資産合計	6,215

負債の部

流動負債	1,263
買掛金	27
短期借入金	261
未払金	160
未払法人税等	147
預り金	350
前受契約料	228
その他	88
固定負債	250
退職給付引当金	55
役員退職慰労引当金	12
預り保証金	183
負債合計	1,514

純資産の部

株主資本	4,675
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	3,629
自己株式	△448
評価・換算差額等	25
その他有価証券評価差額金	25
純資産合計	4,700
負債純資産合計	6,215

Review

中間損益計算書(単体・要旨)

2006年4月1日から2006年9月30日

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

売上高	1,594
売上原価	875
売上総利益	718
販売費及び一般管理費	351
営業利益	367
営業外収益	57
営業外費用	24
経常利益	400
特別利益	0
特別損失	0
税引前中間純利益	400
法人税、住民税及び事業税	144
法人税等調整額	4
中間純利益	251

<参考>

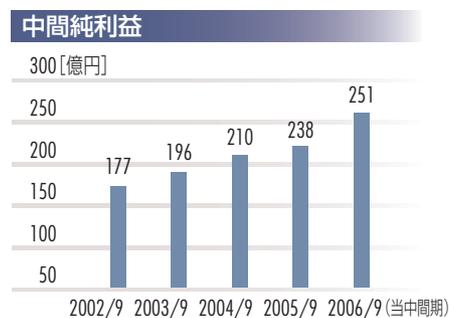
●1株当たり中間純利益 111円82銭

営業の概況(単体)

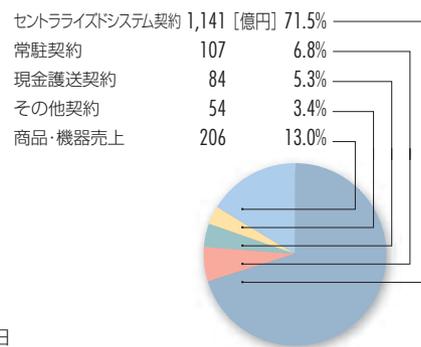
当中間期の売上高は1,594億円(前年同期比60億円、4.0%の増収)、営業利益は367億円(前年同期比4億円、1.2%の増益)、経常利益は400億円(前年同期比21億円、5.8%の増益)、中間純利益は251億円(前年同期比13億円、5.5%の増益)となりました。

部門別の売上高の内訳は、セントラライズドシステム契約が1,141億円(単体売上高の71.5%)、常駐契約が107億円(同6.8%)、現金護送契約が84億円(同5.3%)、その他契約が54億円(同3.4%)、商品・機器売上が206億円(同13.0%)です。

中間単体決算 業績ハイライト



部門別売上高内訳 2006/9 (当中間期)



中間株主資本等変動計算書 (単体) 2006年4月1日から2006年9月30日

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

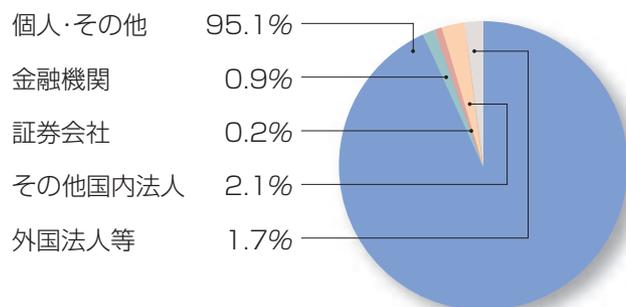
	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
2006年3月31日残高	663	830	3,513	△447	4,560	56	56	4,616
剰余金の配当			△134		△134			△134
利益処分による役員賞与			△ 0		△ 0			△ 0
中間会計 期間中の 変動額								
買換資産圧縮積立金の取崩し			-		-			-
中間純利益			251		251			251
自己株式の取得				△ 1	△ 1			△ 1
自己株式の処分		0		0	0			0
株主資本以外の項目 (純額)						△ 30	△ 30	△ 30
中間会計期間中の変動額合計	-	0	115	△ 0	114	△ 30	△ 30	83
2006年9月30日残高	663	830	3,629	△448	4,675	25	25	4,700

IR Information

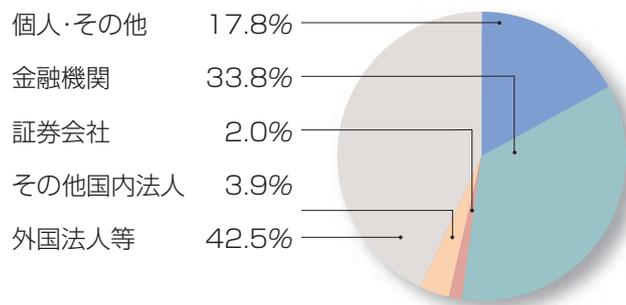
株式の状況 (2006年9月30日現在)

1. 発行可能株式総数	900,000,000株
2. 発行済株式の総数	233,288,717株
3. 単元株式数	100株
4. 株主数	27,917名
5. 所有者別状況	

● 株主数比率



● 株式数比率



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月下旬
- 剰余金配当の基準日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 公告方法 電子公告
<http://www.secom.co.jp/koukoku/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部
大阪証券取引所市場第1部
- 証券コード 9735
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同事務連絡先 〒171-8508
(お問い合わせ先) 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号
(郵便物送付先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696(フリーダイヤル)

● ご案内

1. 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取請求・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続き依頼書のご請求は、上記株主名簿管理人のフリーダイヤル **0120-86-4490** (自動音声応答) で24時間承っております。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので上記株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。

Profile

会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数(グループ総数) 39,634名(2006年3月31日現在)
- 事業内容

1962年、日本初のセキュリティ会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車輜向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システム、各種安全商品などの販売を通じて、社会に安全・安心を提供しています。

セコムグループは、現在、安全システムの普及を通じて培ってきた日本最大級の情報通信ネットワークをベースに、安心で、便利で、快適なサービスシステムを創造し、それらをトータルに提供する「社会システム産業」の構築をめざしています。

取締役(2006年11月30日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
取締役(最高顧問)	戸田壽一
取締役(相談役)	杉町壽孝
取締役会長	木村昌平
代表取締役社長	原口兼正
専務取締役	佐々木信行
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	前田修司
常務取締役	秋山勝夫
常務取締役	飯田志農夫
取締役	小幡文雄

監査役(2006年11月30日現在)

監査役(常勤)	荻野輝雄
監査役	常松 健 *
監査役	安田 弘 *
監査役	山下耕平 *

*印の3氏は社外監査役であります。

執行役員(2006年11月30日現在)

取締役会長	木村昌平
代表取締役社長	原口兼正
専務取締役	佐々木信行
常務取締役	桑原勝久
常務執行役員	小林清一郎
常務取締役	前田修司
常務取締役	秋山勝夫
常務取締役	飯田志農夫
常務執行役員	佐藤興一
常務執行役員	井東雄志郎
執行役員	森 誠一
取締役	小幡文雄
執行役員	伊藤 博
執行役員	小河原俊二
執行役員	杉井清昌
執行役員	高岡 実
執行役員	知野吉弘
執行役員	佐々木 守
執行役員	堤 晃
執行役員	東谷友男
執行役員	森下秀生
執行役員	小松崎常夫
執行役員	坂本正治
執行役員	安齋和明
執行役員	伊東孝之
執行役員	小松良平

個人情報保護法に対する セコムの取り組みについて

2005年4月1日から、個人情報を取り扱う事業者に対して、個人情報の取り扱い方法を定めた法律「個人情報の保護に関する法律」が完全施行されました。セコムは創業以来、セキュリティ会社として当然の責務であるお客様の個人情報などの機密の保持について、社内規程を設け厳格な管理を行ってまいりましたが、本法律の施行を受け、「個人情報保護方針（プライバシーポリシー）」を策定し、個人情報保護についてのセコムの方針を宣言しています。詳細は、セコムのホームページ（www.secom.co.jp）に掲載しておりますが、以下の通りその概要をご紹介します。

セコムの「個人情報保護方針（プライバシーポリシー）」の概要

- セコムは、サービス、商品の内容に応じて、個人情報の利用目的を具体的に明示し、利用目的以外の利用を行わない。
- セコムとセコムグループ各社は、セコムとセコムグループ各社の製品、サービスの提供・紹介などの目的で個人情報を共同利用する。
- セコムは、法律で認められる場合を除き、個人情報を第三者に提供しない。
- セコムは、不正な手段で個人情報を取得しない。
- セコムは、契約者から契約者本人の個人情報の開示などの要求があった場合、本人確認を厳格に行った上で対応する。
- セコムは、個人情報漏えいなどの防止措置を適切に行う。
- セコムは、従業員および委託先に対して、個人情報の取り扱いに関する教育・監督を行う。
- 個人情報に関する問い合わせ窓口は、セコム(株)本社総務部とする。

www.secom.co.jp

会社情報・IR情報・商品・サービス・
プライバシーポリシー等についての
ご案内をしております。

表紙写真のご説明

セコムステッカー

セコムステッカーは、「安全」「安心」のシンボルとして、セキュリティシステムで契約先の玄関や門などに貼らせていただいています。現在、国内100万件以上の企業・家庭の安全を、24時間365日、コントロールセンターで見守り、異常を検知したときには全国約2100カ所の緊急発進拠点から安全のプロが駆けつけます。（撮影協力：積水ハウス株式会社・吉祥寺セキュリティタウン「桜の社」）

